

岩 湊 如 雨

すれ違ふ破魔矢の鈴や肩ぐるま
三日後は桃花と笑むや紺がすり
春宵や清水焼の猪口に酌む
保津川の飛沫に遠き桐の花
郭公の声やみ貨物列車来る
流水や千里連なる夏の波

書出しの文決めかねっ秋暑し
遠祖も通りし畦や曼珠沙華
大根引く大地あらがふこともなく
漱石忌素知らぬ顔の猫過ぎる

.....
一緒に舟下りをした保津川……の句を採っていただいて間もなく
谿聲主宰が不意の病に倒れた。以来作句意欲がきわめて減衰、
なかなか元に戻る気配がない。主宰の本復の早からんことを、そし
て句会の真ん中の席に復た座られることを切に願っています。